

令和7年度和歌山県文化功労賞

さかえはら とわお
栄原 永遠男

住 所 大阪府豊中市
出身地 東京都港区
生 年 昭和 21年

◎ 業績及び経歴

昭和21年東京都港区に生まれ、幼少期に転居し、以後は大阪市で育つ。昭和44年京都大学文学部史学科を卒業し、昭和49年京都大学大学院文学研究科を単位取得退学。飛鳥時代から奈良時代を中心とした日本古代史を専門とし、正倉院で保管されてきた「正倉院文書」や木簡、東大寺、紫香楽宮の研究で知られ、木簡学会・正倉院文書研究会・条里制古代都市研究会・出土錢貨研究会などの学会の会長や代表を務める。和歌山県関連では紀伊古代史に係る研究論文や著作も多い。京都大学博士（文学）。

大阪市立大学（現在の大坂公立大学）で教鞭を執る傍ら、開校100年を記念して昭和47年から始まった『和歌山県史』編纂事業に携わる。『和歌山県史』は長期にわたり全24巻が刊行されたが、その最終巻として平成6年に刊行された通史編『原始・古代』では、和歌山県の黎明期から平安時代末までを扱っている。氏はこの巻において、第4章第2節「紀氏と大和政権」、第5章第1節「律令制の成立と紀伊の国制」、同章第2節「律令制下の政治と社会」、同章第3節「律令制の変容」を担当し、飛鳥時代から平安時代の紀伊国の政治状況や経済状況、都との交流状況等についてわかりやすく執筆した。史料編『古代史料一』でも古代史料の編纂を担当した。そのほか『粉河町史』、『海南市史』についても古代史に関する章を執筆している。平成16年には、研究の集大成として『紀伊古代史研究』（思文閣出版）を出版する。

大阪市立大学退職後は、東大寺史研究所長や大阪歴史博物館館長、大阪市文化財協会理事長等を歴任し、各地で日本古代史の講演活動を行っている。また、令和6年1月19日に皇居宮殿で催された歌会始の儀では、天皇陛下に特別に招かれた召人として参列し、自ら詠んだ歌木簡についての和歌が披露されるという栄誉にあづかった。

氏はわが国の古代史研究を通じて、当時の大和政権において古代の紀氏や紀伊国が大きな存在感を有していたことを県内外に広く知らしめるなど、学术面から本県の文化振興に大いに貢献されており、その功績は誠に多大である。

■現 在

- ・東大寺史研究所所長
- ・東大寺学術顧問
- ・大阪市立大学名誉教授
- ・大阪歴史博物館名誉館長

◆主な表彰歴等

- 平成6年 公益財団法人角川文化振興財団
第16回角川源義賞受賞（国史学
部門）
平成8年 粉河町教育功労者表彰
平成17年 粉河町文化功労者表彰
平成22年 泉佐野市教育委員会表彰
平成27年 第50回大阪市市民表彰（文化
功労）
平成27年 大阪狭山市市民表彰
令和2年 姫路市教育委員会教育功労者表
彰